



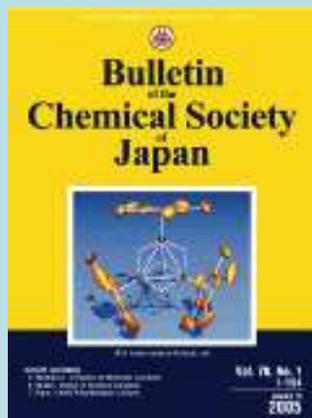
## 学術出版とオープンアクセス

千葉大学学術成果リポジトリ公開記念  
シンポジウム  
2005年9月20日

社団法人 日本化学会



## Bulletin of the Chemical Society of Japan



創刊	大正14年
発行部数	2500部
国内	1600部
海外	700部
寄贈	200部
掲載論文	フルペーパー 総説
掲載論文数	350件/年
年間売上高	11,000万円

## Chemistry Letters



創刊	昭和46年
発行部数	2700部
国内	1750部
海外	750部
寄贈	200部
掲載論文	レター ミニレビュー
掲載論文数	840件
年間売上高	7,500万円

## わが国の学会出版の実情



- 一部を除いて赤字経営(会費の注入)
- 論文誌出版をビジネスとしてみる風土の欠如
- 学会が乱立し事業規模が小さい。
- インパクトファクター神話で一層の苦渋
- わが国には論文系の商業出版が存在しない。



## 日本化学会のオープンアクセス

- Author-pay-option (掲載決定後)
- 投稿料 (別刷代別)
  - BCSJ 10万円 / 論文
  - ChemLett 5万円 / 論文
- WEB上でのアクセス制限解除
- 冊子体の扱いには差がない



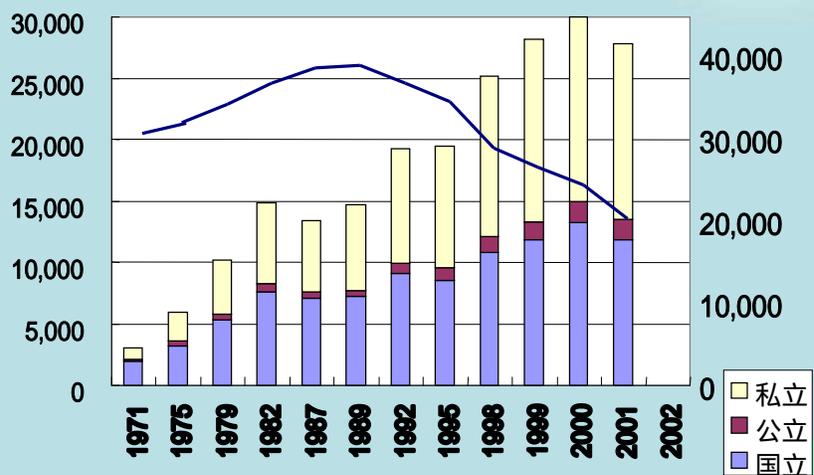
## 海外に流れる論文

	全分野	理工系	生物・医学系	社会科学系
日本論文の世界シェア	12.0%	13.3%	11.2%	4.1%
日本誌での掲載	14,743	8,272	6,316	73
海外誌での掲載	56,585	26,825	29,227	380
海外流出率	79.3%	76.4%	82.2%	83.9%

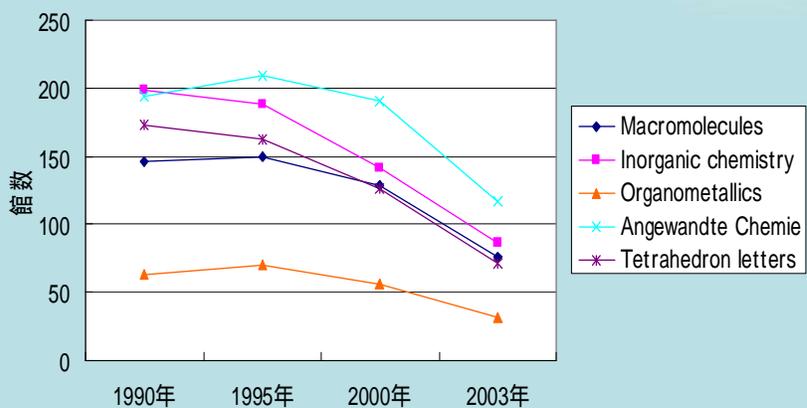
(1982-2001年の推計、情報の科学と技術)



## 増える購読費と減るタイトル数



## 今でも減り続けるタイトル数





## 拡大する矛盾

- わが国の国民の税金でまかなわれた研究成果を、日本人が読むのに、再び多額の税金を要している。
- わが国の国民の税金でまかなわれた研究成果を、日本人が利用できなくなっている。



## 米国のNIIとは

- **The Council on Competitiveness** 競争力評議会が2003年に **National Innovation Initiative (NII)** をスタート
- 目的は米国の競争力強化のための具体的提言
- 急速なグローバル化にともない、とくにアジアにおける米国の競争力の維持強化が課題として浮上しているのに対応
- 全米の産学官のリーダー400名が検討に参加
- 昨年12月に報告書を発表
- 議長: Samuel J. Palmisano (Chairman and CEO, IBM)



## NIIからの提言

決議事項:イノベーションは21世紀のアメリカの成功を決定する最も重要な要因である。

- アメリカが次世代に残せるものは我々の創造力と繁栄へのコミットメントによって決まる。
- アメリカのチャレンジは生産性、生活水準、グローバルマーケットでのリーダーシップを推進するイノベーション力を保つことである。
- 過去25年間、我々は組織を効率と品質に向けて最適化してきた。次の25年間我々はすべての社会システムをイノベーションに向けて最適化しなければならない。



## 第3期科学技術基本計画

「策定の基本方針」 総合科学技術会議・基本政策専門調査会  
発表 (6月15日)

- 理念1 人類の英知を生む
  - 目標1 飛躍知の発見・発明
  - 目標2 科学技術の限界突破
- 理念2 国力の源泉を作る
  - 目標3 環境と経済の両立
  - 目標4 イノベーター日本
- 理念3 健康と安全を守る
  - 目標5 生涯はつらつ生活
  - 目標6 安全が誇りとなる国



## Innovation-orientedなシステム

- 発表の機会の保証
- 分野を超えた広い情報の流通
- 研究者のインセンティブの確保
- 流通する情報の品質の確保



## 現行2モデルの問題点

- タイトル単位で囲い込み、高い契約料を払った人達だけに見せる方法は、品質と効率化に向けて最適化した時代の産物
- 電子化により、タイトル単位の販売自体が、意味を失いつつある。
- それでは、オープンアクセス、機関レポジトリーはイノベーションオリエンテッドなシステムか。
- インセンティブと品質をどう確保するか。



## 第3のモデル

### 受益者負担モデル (Beneficiary-pay-model)

1. タイトル単位の契約から pay-per-viewへ
  2. 読者の少ない論文は、主として著者が負担
  3. 読者の多い論文は、読者が負担
- ・著者はまず公開にかかる費用を投稿料として支払う
  - ・発行者は図書館から利用料を利用実績に応じて徴収
  - ・発行者は、売上から一定のマーヅンを除いて著者に還元する



## Chemistry Lettersでの試算

2004年1月の83論文

アクセス総数 20,900件 論文当り 252件

論文当り出版費用 80千円 約200円/アクセス



## まとめ



- 日本の研究者にとって、論文誌の価格高騰は、矛盾を増大させている。
- これからの学術情報流通システムは、Innovation Oriented なものでなくてはならない。

現行2モデルはどちらも条件を満たしていない

新しいビジネスモデルを日本から出すチャンス

出版者としての学会と図書館連合の連携が不可欠

受益者負担モデルも有力候補のひとつと考える



## America's Task



For the past 25 years, we have optimized our organization for efficiency and quality. Over the next quarter century, we must optimize our entire society for innovation.

From "INNOVATE AMERICA"  
National Innovation Initiative Report

